

災害への備え：自助・共助・公助

災害は忘れる暇もなくやってくる、少なくとも3日前から3日後まで

昨年の台風19号の被害は西区内でも

台風通過後の10月14日の報告によると、床上浸水7件、床下浸水13件、道路冠水10件、停電500件などとなっています。学校8件、公園5件など公共施設の被害もありました。

13日午前2時には荒川が氾濫危険水位を超え、[避難指示]注1)が発令されました。防災無線で避難が呼びかけられたのを聞かれた方もおられるでしょう。

突然の災害とある程度事前予測できる災害

突然大きな揺れに襲われる地震、天気予報という予知情報がある大雨・台風などの気象災害、どちらも事前の備えが何よりも重要です。事前対策で直接被害だけでなく、災害後の二次被害を少なくすることができます。

ライフラインが止まることを想定

電気・ガス・水道・通信などのライフラインが寸断されることが想定されています。災害発生から3日間は外部の支援は来ない＝自力で乗り切る覚悟と備えが必要です。

電気が使えないため、上水道、インターホンも使えません。

ゴミヤードにごみを出しても回収も見込みがありません。案内があるまでは自宅で保管してください。

防災対策本部での防災備品準備の考え方

飲料水・食料品は各家庭で備蓄することを前提としています。それ以外でも各家庭で用意することができるものは基本的に各家庭で準備し、防災対策本部(管理組合・自治会)は各家庭で揃えるのが難しいものを準備するという考え方を基本としています。

防災資機材(各家庭)

自分たちで何が必要かを考えなければ本当に役立つものは揃えられません。防災用品はできる限り普段から使えるものを揃えます。そして普段から使うように心がけます。各家庭では3日分を最低限準備してください。

- ・飲料水(一人あたり3リットル/1日×3日=9リットル)
- ・雑水(トイレ用など) 風呂水を日頃から溜めておいて利用してください。
- ・食料品 3日分
- ・ポータブルガスコンロ、ガスボンベ
- ・懐中電灯、乾電池、充電器
- ・ラジオ 乾電池式や充電式タイプのもの(停電してからでは充電できません)
- ・ゴミ袋、ラップ、料理用使い捨て手袋
- ・保冷剤、携帯カイロ
- ・応急手当用品
- ・応急修理用品(テープ類)、軍手
- ・電気を使わない暖房器具

※防災用に別のものを用意するのではなく、日常使うものを少し多めに備蓄し、使いながら補充してください。

防災資機材(マンション)

各家庭だけでは普段使われることがないようなものですが、誰もが使えるようなものを使える場所に備えます。

- ・ボール、はしご、担架、テント
- ・消火器、メガホン、ロープ
- ・掲示板、リヤカー、防災倉庫 など

まずは家族で(事前の備え)

我が家も家族状況は変わります。年に一度は[家族防災会議]を行いましょう。確認できていますか

- ・被害想定、災害リスク
- ・備蓄品と保管場所
- ・家族の連絡方法 など



注1)避難指示(緊急)は、特に「急を要すると認めるとき」に出すことができることとされ、避難勧告より強い呼びかけになる。2017年「避難勧告等に関するガイドライン」

